

学校支援の充実

組織のスリム化からはじめる持続可能な P T A 活動

～無理なくできる・皆で支え合う P T A 活動を通して～

北名古屋市立西春中学校 P T A

1 はじめに

西春中学校は、北名古屋市の中心に位置し、昭和 22 年に創立された今年度 79 年目を迎える伝統ある学校である。

全校生徒 303 名、学級数 11 (特別支援学級 2 含) の中規模校であり、「誠実・勤勉・思いやり・感謝」の校訓のもと、心身ともに調和のとれた人格形成を図り、社会をたくましく生き抜く力を育むとともに、ふるさと北名古屋の文化・風土に誇りをもち、社会に貢献できる生徒の育成を目指している。

校舎は、環境省の「エコ改修・環境教育モデル事業」として、平成 17 年度からエコ改修工事が進められた。室内の木質化や太陽光パネル、自然換気システムが導入され、生徒が学ぶ校舎内は木材に囲まれた潤いのある学習環境に整えられている。



【西春中学校校舎】



【潤いのある学習環境】

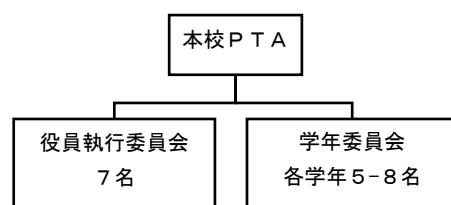
2 研究への取組

(1) 本校の P T A 組織

本校の P T A 組織は『役員執行委員会』と『学年委員会』で組織されている。

(2) 研究のねらい

近年、共働き世帯の増加やライフスタイルの多様化により、保護者の P T A 活動への参加が難しくなってきている。そうした中で、 P T A 活動の在り方も見直されつつあり、本校では、 P T A 活動を単なる保護者の義務とせず、「無理なくできる・皆で支え合う P T A 活動」の合言葉のもと、組織のスリム化からはじめる持続可能な P T A 活動を目指すことで、学校支援を積極的に進めることとした。



【本校 P T A 組織】

学校支援を積極的に進める上でのPTA活動の課題や委員の不安

学級数は減少傾向にある中で、PTA組織は従前のままである。

欠席が多いと他のPTA委員に申し訳ない

仕事や家庭の都合で、PTA活動に参加できない時があるけど大丈夫か。

登校指導や挨拶当番など、PTA委員だから参加しなければいけないことが増えそう。

(PTA委員へのアンケート結果から)

これらの課題や不安の解決に向けて

時代の変化、学校の変化に合わせた
PTA組織のスリム化が必要

「不易と流行」を大切にした持続可能な
PTA活動の見直しが必要

「無理なくできる・皆で支え合う
PTA活動」を合言葉に

組織のスリム化からはじめる持続可能なPTA活動を目指し、
学校支援を積極的に進める。

3 実践活動の概要

(1) PTA組織のスリム化

コンパクトで運営しやすいPTA組織とするために、次の3点の見直しに取り組んだ。

① PTA学級委員の選出数と選出方法の見直し

【従来】

- PTA学級委員として、各学級2名を必ず選出
- 始業式後、担任が保護者に電話をして依頼

【見直し】

- 学級の枠を取り外し、学年委員として5名程度を選出
- Webアンケートシステムを活用した立候補制

② PTA地区委員の見直し

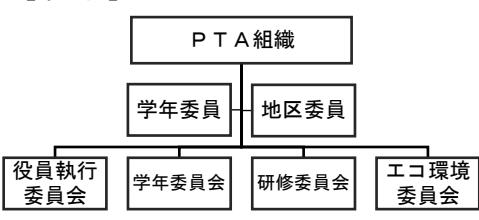
【従来】

- 学区を6地区に分け、約13名のPTA地区委員を3年生から選出

- PTA地区委員の廃止

③ 専門委員会の見直し

【従来】



【見直し】



(2) 持続可能なPTA活動

「不易と流行」を念頭に置き、継続すべき活動は今以上に充実させ、変化が必要な活動は大胆に変化させ、新しく必要な活動は積極的に導入した。

① 親子あいさつ運動（充実）

この日の朝は、いつも以上に大きな挨拶が昇降口に響き渡る。少し照れた表情を浮かべる中学生の我が子と並びながら挨拶を交わす親子の光景はあたたかく、本校PTA活動の伝統となっている。



【親子あいさつ運動の様子】

② 引き渡し下校訓練（導入）

令和5年度末のPTA委員との意見交換の場において、「災害は、子どもが在校中に起きることもある。そのとき学校・子ども・家庭が混乱しないような防災訓練をしたほうがよい」という意見があり、令和6年度に実施した。



【引き渡し下校訓練の様子】

③ 学校運営協議会との連携（充実）

本校の学校運営協議会は、学校の教育目標やニーズに合せて柔軟に活動するため、一定数のPTA委員が学校運営協議会の委員も兼任し、お互いの強みを生かして生徒の学びを支えている。



【職業人の話を聞く会
「建築家ブース」の様子】

その一つに「職業人に学ぶ会」がある。生徒の事前調査から関心が高かった、美容師や弁護士をはじめ、10名の講師を人選し、生徒のキャリア教育の充実につなげた。

④ 行事での受付支援の見直し（変化）

以前は、「毎年恒例だから」という理由で、体育大会や卒業式などの学校行事の受付支援を行っていた。しかし、「P

TA委員で役割があるから、我が子の姿をゆっくり参観できない」という委員の声もあり、受付支援体制の見直しを行った。「帰り際の10分だけ時間があったから受付を手伝う」「先生が大変そうだったから5分だけ手伝う」など、あらかじめ役割や担当は設けずに、その時々の状況に応じ、できる人ができるときに、無理なく学校を支えることができる支援体制とした。

⑤ 避難所開設訓練（導入）

本校では、今年度の7月に体育館に空調設備が完備され、災害時の避難所としての役割も担うこととなった。そこで、地域の力となるために、PTA委員・生徒・教員・地域が一緒に防災について学ぶ「避難所開設訓練」を開催することとした。

当日は50名以上の参加者が集まり、防災設備の設置を体験することができた。



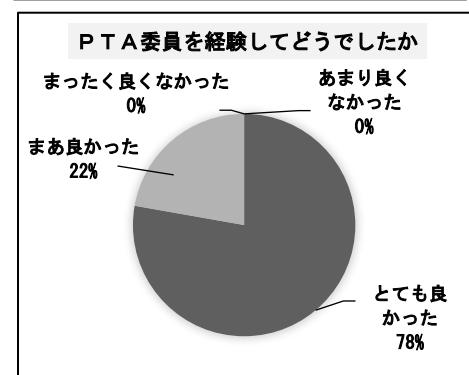
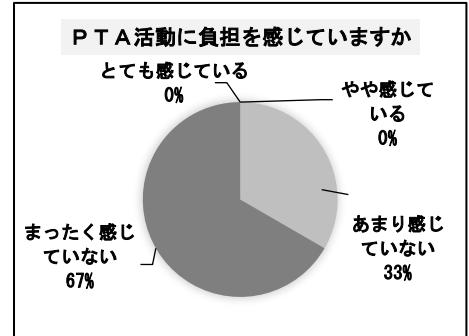
【避難所開設訓練の様子】

4 おわりに

今回の実践を通して、充実したPTA活動を進めるためには、誰もが無理なく、負担なくかかわることができる組織づくりが大切であると改めて実感することができた。

令和7年度PTA委員へのアンケートでは「PTA活動に負担を感じますか」の項目に対し、「とても感じている」「やや感じている」の回答は0%であり、「経験してどうでしたか」の項目には100%が肯定的な回答であった。組織のスリム化や活動内容の見直しを進めたことで、「無理なくできる・皆で支え合う」の合言葉が浸透したと感じている。

引き続き、時代の変化と学校のニーズに柔軟に対応し、誰もが、無理なく参加できる持続可能なPTA活動を展開することで、子どもたちの成長を支えていきたい。



【令和7年度PTA委員アンケート回答より】